

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

2022 年 6 月 13 日

静岡県知事

川勝 平太 殿

提出者

住 所 袋井市豊沢2228-1

氏 名 トップラン・フォームズ東海株式会社 袋井工場
常務取締役工場長 笠井 信

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）

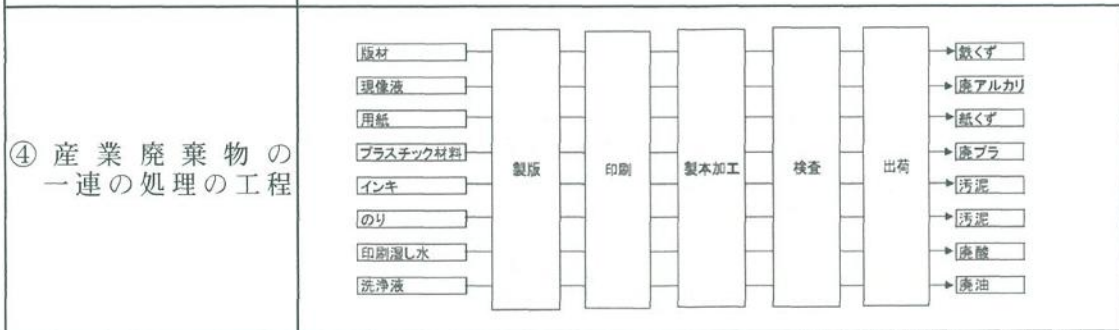
電話番号 0537-44-3310

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	トップラン・フォームズ東海株式会社 袋井工場
事業場の所在地	袋井市豊沢2228-1
計画期間	2022年4月1日～2023年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

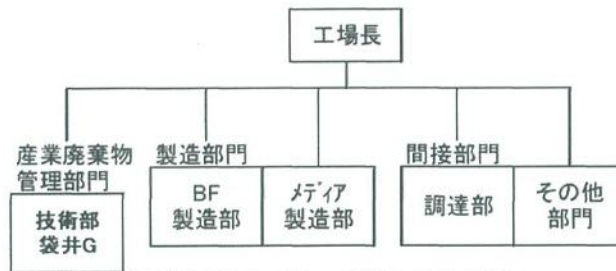
① 事業の種類	印刷・同関連業
② 事業の規模	19,203百万円/年
③ 従業員数	421人



（日本産業規格 A列4番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



- ・廃棄物処理計画の作成、行政への報告、記録の管理。
- ・処理業者の選定、契約、評価
- ・廃棄物処理状況の把握と管理、改善策の検討

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 3 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	廃プラスチック
	排出量	2,202.32 t	129.73 t
	(これまでに実施した取組) <ul style="list-style-type: none"> ・パンチ粕をサーマル処理からマテリアルリサイクルへ変更 →2021年度83.6t (パンチ粕全体の79.7%) ・圧着紙をサーマル処理からマテリアルリサイクルへ変更 →2021年度226.14t (圧着紙全体の100%) ・PVCフィルムをサーマル処理からマテリアルリサイクルへ変更 →2021年度3.8t 		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	廃プラスチック
	排出量	2,200 t	130.00 t
	(今後実施する予定の取組) <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックカード粉砕くずの分別により、PVCだけでなくPET-Gも有価売却開始。本格化を見込む。 		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックカード不良品はPVCとPET-Gが混合していたが分別を開始した。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <ul style="list-style-type: none"> ・カードの製造工程のうち検査工程からは分別排出に成功。印刷加工工程への展開をはかる。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類_	紙くず	廃プラスチック
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類_	紙くず	廃プラスチック
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) なし		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類_	紙くず	廃プラスチック
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
(これまでに実施した取組) なし			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類_	紙くず	廃プラスチック
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	15 t	45 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	15 t	45 t
(今後実施する予定の取組) ・ゴミを燃焼させて発電する設備の導入計画がある。当初は2021年度設置予定であったが、2022年度上期中の設置を目標にしている。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和 3 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	廃プラスチック
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	廃プラスチック
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) なし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和 3 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	廃プラスチック
	全処理委託量	2202.32 t	129.73 t
	優良認定処理業者への処理委託量	1749.19 t	60.18 t
	再生利用業者への処理委託量	431.85 t	0 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	20.7 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	1749.19 t	92.23 t
(これまでに実施した取組) ・ 故紙処理に関して2社を使い分けている。 ・ 廃プラではマテリアルリサイクル化をする業者と取引を進めている。			

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	紙くず	廃プラスチック
	全処理委託量	2200 t	130 t
	優良認定処理業者への処理委託量	1700 t	35 t
	再生利用業者への処理委託量	430 t	15 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	3 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	1700 t	77 t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プラスチックカード粉碎くずの分別により、有価売却することでマテリアルリサイクル化していく。 →現状63.1tから33.6tへ29.5t減少を見込む 		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

請
じ
ま
と。

中
間
量
行
取
あ
へ
と
の
入

- (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じた事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
 - 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
 - 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
 - 7 ※欄は記入しないこと。